

でも出悪いのである。

△此緑の蔭には、インヂゴーにオリヴァグリーンの如きもの、ローシーナの類である。(つゞく)

着色の談

石川 欽一郎

着色は即ち色の調子で有りますが、之れは使用する色の種類と混ぜ方により大に關係がある、Gamboge と云ふ黄色は透明で暢びの能い軽い色であるから、何にか綠色と混ぜれば、日向の草の色、若葉等に最も適する、又た花の色、果實の色にも能く使用しますが、缺點は變色するのと、色の薄ッぺらなるとにありますが、故に Cadmium Yellow を混ぜ用ゆると都合が能い、此色は肉もあり照りもあり、キ、の能い色であります、變色もしません、只不透明であるから前の如くのように軽るくは行きません、此二つの色を一處にしたやうな

Aniline

と云ふ繪の具があります、之れならば一色で二つの代はりをする極好い色です、價は少し高い、凡

て此等の明るい色を塗る場合には、第一筆がキレイでなければならず、水もキレイでなければならぬ、又繪具其物が全くキレイで無ければいけません、之れが着色の上に大に關係する、Gamboge とか Lake とか云ふ透明な軽い色は、少しでも筆や水に混りけがあると直ぐ感する、又一度汚れて着いた色は、洗つて塗り直しても到底無駄です、ワルイ事は申しませんから此點に充分注意して、一つやつて御覽なさい、Light Red と云ふ色があります、又 Venetian Red と云ふのもあります、似たやうな色であるが、この方が稍や軽るく、且つ明るい、僕は此方がスキですが、此色と他の青色若くは藍色と混ぜるには注意しないと不透明な死んだ色が出る、Indian Red ても亦同様です、雲の灰色などには此等の三 Red と Cobalt 又は French Blue 或は時に Indigo と適度に混ぜる、Vermilion とませる事もあります、混ぜ方が悪いと往々黒インキの腐れたやうな色が出る、思ふに一遍に濃く塗るから悪いので、適度の色を一度塗り、又乾いた上に塗るようにすればそんな

管は無、或は森の暗い影などには、まづ Indigo ぐも Cobalt ぐも塗つて置いて、乾いてから右等の Red か或は藍色と混ぜた灰色を塗れば好い、畫で一番かくに面白い處は陰影の部分であります、日向の部分は反射の強い爲め餘り幾度も筆を觸れると日向の趣が消へてしまふ、日陰の部分は之れと變つて其陰の中に種々な色が現はれて居る、陰は暗いものと思つて居ると大違ひ、種々面白い色がある、一番腕を奮う處です、それで色が陰影の部分では皆奥深く見える、日向の處は只それ丈の色であるが日陰の處には奥行がありません、即ち透明と云ふのです、此部分へもつて來て、Vermilion に Cobalt のような不透明な色を構わず用ゐた日には、納まりが付かなくなる、大に研究すべき處であります、又た陰ばかりの畫、例へば夕暮だとか、曇天だとかの畫も、右のような方法で面白くかける、雨の景なども中々面白い、此種の畫には凡て繪の具の調合と着色の順序とに注意を要するのであります、Prussian Blue と Antwerp Blue は似たような色で繪具箱には付物ですが、此色は實際用ゆる場合が少ないのみならず、薄つべらな下品な色であるから、之れは始めから使用せぬ習慣にした方が好いのです、此藍色は繪具によると能く混合せず、又た畫の上に一種寒い感を與へて着色の豊富を害し易いのであります、併し此繪具のゴヒイキ筋も有りませう、僕は敢て其方々に對して自分の説を主張しません、Vandyke Brown は透明な温かい色で極めて必要であるが、僕は寧ろ Sepia の方を賛成します、Van の方は永く經つと色がトボケて來るが、此點に於ては、この方は大丈夫であるし、其他凡ての方が色が實直である、Lake の種類に至ては、信用の置ける色は少ないのです、Crimson Lake は黒くなるし、Rose Madder は消へてくるし、Carmine も亦變色する、之れは到底致し方が無い、只保存の方法は、畫には直ちにガラスをかけ、又額の裏には目張りをして外氣を入れぬようになし、又直接日光に當てぬようにすれば、大した事はありません、之れは何色に限らず畫の保存上宜しいのです、又た仕舞つて置く場合にも、間には柔らかな日本紙を挿入し、タトウに入れ、桐油紙の如きもので包んで、桐の箆筥に入れて置くのが好いのであります、右の Lake の類に一吋代用して、變色の恐れのないのは Indian Red です、少し色が重いのと、冴へ無いのが缺

點であります。陰の色、雲だの遠景だのには French Blue 〇 Cobalt と適度にまぜて好い灰色が出ます。Yellow Ochre 〇 Sienna の類は安心の出来る色で、又此處で申上げずとも已に諸君の知つて居らるゝ通りです。綠色は都合の好いやつがドーモ尠ない、Emerald Green は馬鹿に重い色で又た實際景色畫には入用が無い、Hookers Green は變色もするし寢ボケてもくる、Viridian は變色する上に重いと來て居る、其他にも種々あります。僕が今迄用ゐて大して變色の恐を見ず、透明で色が冴へて、他の色と混りやすいのは Cyprus Green です。一つ試めして御覽なさい、着色の要訣は繪具の性質と關係とを知るのが大切であります。始終研究して居つて段々分るもの故、之れが爲めには困難を忍んで、充分奮發して御覽なさい、同じ繪具、同じ紙、同じ筆を用ゐても、經驗の有る人の色は色が能く現はれ、然らざる人の色は色が出ません、即ち腕の如何に關係する處大なる譯であります、それから大して變色しない質の繪具、例へば Ochre Sienna Light red Cobalt Sepia 等の類は通常のものを用ゐても差支なしとした處が、Lake Green Gamboge Ultramarine 等の類はよし稽古の爲めにも、極上等のものを用ゐぬと、永い間には變化して來て、折角の骨折も水泡に歸します、ドーセ慰みだから繪具は何んでも好いと云ふ人々は、畫を侮辱したるのみならず、心底から眞面目に研充しようと云ふ考への無い者で、時間と勞力とを徒費するに過ぎないのです。水彩畫は決して繪ハガキ位を五茶竈かす爲のものでなく、果又た旅行日記の挿畫を以て甘んずべきでない、否將さに水彩は水彩として、堂々と美術の粹、技術の精天下に並ぶものなき靈高なるもので無ければならぬのであります。

*

*

*

*

*

*

*

*